

脱原発シリーズ！ No.2

反原発・反核

【会社掲示板（J R 東海健康管理センター）】

本当に大丈夫？

先月末まで総合庁舎 5F エレベーター横の掲示板に「健康ちょっといい話 平成 23 年 5 月 臨時号 放射能及び放射線について」が掲示されていました。

内容は ①放射能・放射線とは？

②被ばくとは？

③人体が受ける影響って？

最後にお酒を例にして、「お酒は一升を一気に飲むと危険な状態に陥ったり、最悪の場合は死に至ることもあるかもしれませんが、毎日少しずつだとおいしく飲めますね。飲み方によっては、二日酔いになったり、病院で治療を受けたり、飲んだ量や時間によって影響は異なります。放射線も同じで、長い期間分散して浴びるとダメージを修復する時間が出来るため、より影響が少なくなります。」とあります。

放射線とお酒を同じに考えていいのでしょうか？

内部被ばくに関して、名古屋大学の沢田昭二教授は、「数年後から 10 年以上経て、白血病、甲状腺機能低下、肝機能低下、心筋梗塞など、あらゆる障害が起こり得るのです。」と語っています。

「直ちに人体に影響はない」、「現時点では安全性に問題はない」という政府の発表を信じて良いのでしょうか？

今一度、原発問題をよく考えましょう！

【放射線の基礎知識】を紹介

1Sv (シーベルト) = 1000mSv (ミリ・シーベルト)

1mSv = 1000 μ Sv (マイクロ・シーベルト)

1 μ Sv = 1000nSv (ナノ・シーベルト)

Sv (線量当量) は、生物への影響を考慮した単位です。

Gy (グレイ) という単位もよく使われますが、これは人体影響を考慮しません。吸収線量とも言います。

次に、被曝についてです。

【自然放射線源による被曝】

宇宙線 0.39mSv/年

外部大地放射線 0.48mSv/年

この2つを合計して、0.87mSv/年となります。つまり、誰もが平均 0.099 μ Sv/h (毎時 0.099 μ Sv) の自然放射線量を浴びています。ガイガーカウンターの数値が、0.099 μ Sv/h 前後であれば、問題がありません。

【公衆被曝】

当然ながら、非自然の放射線量も定められています。放射線関係職業に従事の方を除き、1mSv/年 \doteq 約 0.114 μ Sv/h までが上限と定められています。これを、子供も含めて年 20mSv/年 \doteq 約 2.28 μ Sv/h (従来の20倍) にまで引き上げたことが問題視されています。

【被曝線量による障害】

短時間に全身被曝した場合、2Sv で5%致死、約4Sv で50%が致死、7Sv 以上で99%が死亡します。また、200mSv 以下の被曝では、長期的な影響があります。

大阪府から被災地に派遣された職員が脳内出血で亡くなりました。原発の作業員も心筋梗塞で亡くなりました。B線による内部被曝は、外部被曝の4.5倍の影響と言われています。

福島原発事故後、原発問題は世界的に脱原発へ加速しています。

私たち東海労は、全ての原発についてNO！をつきつけ平和で安

心して生活できる社会をつくるために奮闘します！